

産 科

1. スタッフ

科長（兼）教授 木村 正

その他、産科及び婦人科として、教授 1 名、准教授 1 名、講師 3 名、助教 14 名、医員 43 名、病棟事務補佐員 1 名、外来事務補佐員 1 名

（兼任を含む。また、助教は特任を含む。）

2. 診療内容

母体合併症、産科的合併症、胎児異常などのハイリスク妊娠を扱い、大阪府北部における第 3 次産科救急病院の使命も担っている。新生児異常は小児科医を中心に、小児外科、脳神経外科も参加し、できるだけ出生前からの一貫したチーム医療をするように心がけている。また、大学の特殊性が発揮できる疾患に対しては、積極的に新生児搬送も受けている。平成 16 年の NICU 発足以来、極低出生体重児の受け入れを積極的に行っている。また、平成 18 年 MFICU (Maternal Fetal ICU) の設立、平成 19 年には大阪府より総合周産期母子医療センターの指定を受け、また、最重症妊産婦受け入れ施設として、高度救命救急センターと連携して、母体救命救急症例（産褥出血症例、脳・心血管合併妊婦）にも積極的に受け入れている。また、NIPT・出生前診断・カウンセリングにも力を入れている。平成 27 年に胎児診断治療センターを設立し、これまで以上に関連各科との緊密な関係を構築し、胎児疾患の診断治療に当たっている。また平成 29 年から麻酔科医による無痛分娩も関西では他施設に先駆けて開始した。

合併症のない、いわゆる正常妊婦・胎児についても受け入れており、安全に分娩・育児もできるようにサポート・管理している。

3. 診療体制

当科の外来は第 3 診察室、第 4 診察室がその日の初診患者、妊娠初期の患者を担当している。すべての内診台に経膈超音波断層装置が準備されており、内診とともに直ちに画像診断による情報が得られ、診断精度向上に寄与している。診療においては、平成 25 年より、合併症妊婦の増加に伴い、妊婦診だけでなく、合併症妊婦診、産科ハイリスク妊婦診を設置した。また、NIPT（母体血胎児染色体検査）の臨床研究の協力施設として、事前のカウンセリングを始めた。また無痛分娩を希望する妊婦に対して、産科麻酔医による無痛分娩外来も麻酔科に設置した。当科に所属する産科医の人数は日本の大学病院では多く、産科のあらゆる分野

において専門外来を実践するスタッフがそろっている。

当科専門外来の日程とその主に担当する診療内容は次のようになっている。

(1) 月・火・金曜日 午前

妊婦診：

一般妊婦診察を行っている。助産師による指導及び医師による診察を並行して行っている。超音波検査による胎児の診断も必要時に行う。

(2) 水・木曜日 午前

合併症妊婦診：

内科合併症を有した妊婦の診療を行っている。従来、妊娠・分娩が困難であった症例に対しても内科、外科などと協力して集学的治療を行い、安全な妊娠出産を行っている。また、流産を繰り返す方の原因検索とアドバイス、治療も行っている。さらに、妊娠前の相談についても積極的に行っている。

(3) 水曜日 午前

産科ハイリスク妊婦診：

近年、妊婦の高齢化や帝王切開の増加により前置胎盤・癒着胎盤などの産科合併症も増加している。産科的リスクを有する母子に対し安全に妊娠・分娩管理を行っている。

(4) 火・金曜日 午前

胎児外来（胎児診断治療センター外来）：

胎児疾患、発育の異常などを合併した妊婦の診療を中心に行っている。胎児の管理について小児科、小児外科、脳神経外科などの関連科と協力して最善の治療及び分娩方法・時期の決定を行っている。また、胎児疾患が心配な妊婦のカウンセリング・超音波診断、妊娠前の相談についても積極的に行っている。

(5) 平日 毎日 午後

胎児超音波検査：

本院通院中の妊婦のみならず、近隣より紹介された妊婦を対象に、妊娠中期（妊娠 18～20 週）・妊娠後期（妊娠 26～30 週）に胎児異常の早期発見の目的でスクリーニング検査を行っている。

超音波断層法（年間約 5,000 件）：月～金

(6) 木曜日 午後

無痛分娩外来：

無痛分娩希望の妊婦に対して、産科麻酔医による出産前評価を行い、安全に無痛分娩が実施できるような体制を整えている。

上に述べたように、一般妊婦だけでなく内科・外科的合併症を有する妊娠を管理する妊婦診や、胎児異常を専門とする胎児外来がある。また妊娠中期には、胎児の形態的スクリーニングを行う胎児超音波検査を行っている。その他、遺伝子診療部と共同で出生前のNIPT、遺伝子診断、羊水による染色体検査も行っている。

		3診	4診	特殊診
月	午前	初診	初診	妊婦診
	午後	再診	再診	胎児超音波外来
火	午前	初診	初診	妊婦診 女性研究者サポート外来 胎児外来
	午後	再診	再診	胎児超音波外来
水	午前	初診	初診	合併症妊婦診 ハイリスク妊婦診
	午後	再診	再診	胎児超音波外来
木	午前	初診	初診	合併症妊婦診
	午後	再診	再診	無痛分娩外来 胎児超音波外来
金	午前	初診	初診	胎児外来 妊婦診
	午後	再診	再診	胎児超音波外来 両親学級

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

外来患者数は1日平均100名である。妊婦診は1日平均30-40人である。胎児外来は1日平均5人の新患がある。いずれの外来も、大阪府下はもちろん広く京阪神からの紹介を受けている。超音波外来では、本院通院中の妊婦のみならず、近隣より紹介された妊婦も対象に、胎児診断を行っている。

(2) 入院診療実績

総合周産期母子医療センターは、母体病床14床、MFICU 6床、NICU 9床、GCU18床を整備している。分娩統計が示すように母体合併症の率が高いのが特徴である。異常新生児に関しては、早産にともなう未熟児はもちろんであるが、胎児外来の活動が盛んなことを反映して、出生後の外科的な治療を必要とする先天性疾患が多いのが特徴である。また、産科麻酔を専門とする麻酔科医を中心としたチームを立ち上げ、無痛分娩を24時間体制で行っており、年々増加傾向にある。【詳細は総合周産期母子医療センター・胎児診断治療センターの頁を参照】。

分娩数（妊娠22週以降）	599件
帝王切開数	211件
無痛分娩数	195件
早産	86件

(3) 胎児診断治療

カラドブラ、4D超音波あるいはMRIを用いた胎児診断、さらに羊水中の生化学的分析や胎児採血による直接的な胎児診断にも力を入れている。さらに、胎児胸水症に対しては胎内でのシャント術、胎児貧血に対しては胎内輸血、また胎児不整脈に対しては経胎盤的な薬剤投与による胎内治療を積極的に行っている。また、遺伝子診療部と共同で出生前のNIPT、遺伝子診断、羊水による染色体検査も行っている。【詳細は胎児診断治療センターの頁を参照】

5. その他

(1) 諸学会の認定施設

日本産科婦人科学会専門医施設認定

日本周産期・新生児医学会専門医施設（基幹施設）

(2) 専門医数

日本産科婦人科学会専門医	全スタッフ
周産期専門医	3名
臨床遺伝専門医	4名
新生児蘇生インストラクター	3名